

# 令和2年度 学校評価総括表

<b>教 育 目 標</b>		・人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成を目指す。 ・ものづくりとビジネスの実習・演習を通して技術を身に付け、社会に貢献できる生徒の育成を目指す。			<b>総合評価</b>	
<b>運 営 方 針</b>		「ものづくりとビジネスの出会いを通じた人作り」をスローガンに、高等学校普通教育並びに工業科・商業科等に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けさせ、産業及び文化の進展に貢献し得る豊かな人間性と自立的な態度を育成するとともに、清新な気風に満ちた魅力ある校風の樹立を目指す。				
<b>昨年度の成果と課題</b>		<b>本 年 度 の 重 点 目 標</b>		<b>具 体 的 目 標</b>		
生徒指導事象が減り、生徒の多くが自らすすんで挨拶できるようになった。また、生徒会活動が活発になり、生徒会が主体となり各学校行事の運営もすることができるようになった。反面、基礎学力の低下により希望する進路に進むことができない生徒がいる。 本年度は、生徒会活動をより一層充実させ、地域との連携の強化に向けて新たな取組を行いたい。		(1) 基礎基本を定着させ、着実な学力の向上を目指す。		・各学年・科別のシラバス、評価の観点を示し、学ぶことの大切さを理解させ、基礎学力の定着を図る。 ・自己の目標を明確にし、その達成に向けた取組の一貫として資格や検定の受検を奨励する。		
		(2) 集団や社会の一員としての自覚を高め、自己実現への積極的な態度を育成する。		・人としての生き方や社会でのあり方について考えさせ、自己の進路を見つめさせる。 ・地域の一員として、挨拶運動や奉仕活動を実施する。		
		(3) 生徒と心の通う人間関係を築き、基本的な生活習慣や自己管理能力を培う。		・ルールやマナーを身に付けさせ、規範意識の向上を図る。 ・一人ひとりの生徒が抱える課題を理解し、適切な支援を行う。		
		(4) 安全教育の充実を図るとともに、安心して学校生活を送ることができるよう環境の整備に努める。		・日常生活の中の様々な危険を予測させ、安全な行動をとらせることができるようにする。 ・職員の日常における観察と面談を通して、状況把握に努め、職員間で共有することで相互理解を促し、目標達成に資する。		
		(5) 職員の勤務状況を的確に把握し、過重な勤務や特定の職員への偏重が少なく、ともに支え合って職場課題を解決する職場環境を創造し、勤務時間と健康の管理を意識した働き方を推進する。				
<b>評価項目</b>	<b>具体的目標（評価小項目）</b>	<b>具体的方策・評価指標</b>	<b>自己評価結果</b>	<b>成果と課題（評価結果の分析）</b>	<b>改善方策等</b>	<b>学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策</b>
学習指導	わかる授業・学力を付ける授業の実践	・各教員が当該教科・科目のシラバスを作成するとともに、これを用いて年度当初に生徒へ学習の目的や学習内容、評価方法を周知する。 ・各教員が、当該教科・科目において2、3学期当初に学習内容等を再度周知し確認する。 ・機械・ビジネスの専門教科で、シラバスを活用して、指導方法や教材の工夫、学習方法の把握の仕方などについて情報交換を行い、指導力の向上に努める。普通教科間でも同様の取組を行う。 ・1学期末に生徒による授業評価を行い、その結果を授業改善に生かす。 ・観点別評価に則した授業内容を研究し、アクティブラーニングを積極的に実践していく。	B	・すべての教科・科目でシラバスの活用と実践がなされ、おおむね設定目標に応じた授業展開ができた。 ・コロナ禍による家庭での家庭学習期間の影響で、生徒自身が自らの授業の理解度や成長を十分自己評価できなかった。しかし、教員側がアンケートや生徒への聞き取り等を用いて生徒の理解度を見極め、生徒の目標設定や授業の助けにつなげた。今後はさらにアンケート内容を充実させて生徒の理解度の把握に努めたい。 ・それぞれの教科科目で観点別課題を設けて授業を実施している。しかし本年度は、新型コロナウイルス対策の遠隔授業等で、計画どおりには進まなかった。	・評価における情報交換のための研修を実施。 ・目標設定と指導の過程をより詳しく記録し、評価、見直しをしていく。	学習や目標達成・自己評価がうまく出来ない生徒が多い中、単位取得や資格取得などの目標を持ち続けさせることができるよう、様々な仕組みを提供している。また、自己肯定感が得られるよう、学習指導に工夫も見られる。新学習指導要領に対応する教育課程の策定も完成が近いが、その内容の精選等、生徒によりよい教育を提供できるように準備をお願いしたい。
	個に応じた指導の実践	・中間考査後の成績を全職員で確認し、意見交換のもと個々の生徒の学習状況を把握・確認する。 ・常に学習の必要性を訴えかけるとともに、特に1、2学期末の成績不振者への指導において、普段の学習が成績に反映されることを十分に理解させながら指導する。 ・個々の生徒の興味関心や学習意欲を充実させるために、授業においては全体指導とともに、生徒各自の理解度に応じた課題を行う時間を設けるなど工夫する。	B	・授業での細かい声かけや見守りなど、絶えず生徒の状況を理解しようとする取組の成果が出ている。また学習指導研究会に関わって、各教科・科目の具体的な指導内容を聞き取ったが、どの教科・科目においても丁寧で生徒に寄り添った授業が行われていた。後に実施した授業評価アンケート（生徒対象）でも、丁寧な授業への評価が多く、授業の理解度にも一定の成果が見られる回答が目立った。 ・今年度、2学期中間後の情報交換会等において、成績不振や生活に問題を抱える生徒の教員の相互理解が深まった。	・さらなる声かけときめの細かい指導をする。 ・情報交換会など、有意義な取組を継続していく。	
	資格・検定の取得に対する積極的な支援	・取得可能な検定や受験可能な資格の情報を広く生徒に提供し、資格取得への関心を高める。 ・生徒の実力を考慮しつつ、将来役に立つ資格や検定を絞り込み、資格の取得や検定合格に向け重点的に取り組ませる。また、これらの資格検定については、より多くの生徒に受験するように働きかける。 ・機械科、ビジネス科で取り組んでいる資格や検定について生徒の段階に応じて教員が呼びかけ、資格取得の意欲を盛り上げていく。	B	・検定への興味関心については、各授業で意識付けをしているが、学年や個人により興味の持ち方に差異がある。この差異を埋めるべく、検定を視野に入れた授業では、さらに充実した指導を展開したい。また本年度は、資格検定に高い関心を示した生徒に対し、放課後等に個別に指導をした。その結果、ビジネス科では文書処理や電卓検定、簿記検定において数名の生徒が1級、2級を、また機械科においては計算技術検定やガス溶接資格試験に数名合格しており、一定の成果は出ている。	・授業やクラス、学科での検定への意識付けと放課後の検定指導を粘り強く進めていく。	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
生徒指導	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻・欠席防止を徹底し、基本的生活習慣の確立を図る。（昨年度の15%減）</li> <li>挨拶の励行、時間厳守及び自己管理の徹底し規範意識の向上を目指す。</li> <li>各授業や学校行事等に臨む際の姿勢や態度などにおける基本的なマナーの向上を図る。</li> <li>交通安全教室及び巡視指導等を通して、通学時の安全確保に努めるとともに、交通マナーの向上を図る。</li> <li>月1回生徒にプリント（たばこのお話）を配布し、たばこの害に関する意識を向上させるとともに、薬物乱用防止教室をとおして薬物の恐ろしさを認識させる。</li> <li>個別面談や家庭訪問で把握した生徒の状況を、教職員間での共有に努める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>欠席については少し減少したが遅刻については横這い状態であった。</li> <li>生徒会との協力で、互いに挨拶する習慣が定着しつつある。（全生徒の約70%）</li> <li>集会時における姿勢や態度等の基本的なマナーや、通学時の交通マナーにおいては目標をほぼ達成できた。</li> <li>月一回「たばこの話」等の喫煙における健康被害を中心に、様々な場面を利用して指導した。</li> <li>家庭訪問により得た生徒の状況等を資料作成し、情報共有を図ることで、共通理解をもとに教職員が生徒を指導できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4年間の指導を通して学校のルール、時間厳守、挨拶等の社会のきまりをしっかり身に付けさせたい。また、授業や学校生活での関わりの中で生徒の少しの変化を観察し、継続して指導していきたいと思う。</li> </ul>	<p>日常の丁寧な取組によって、挨拶する生徒が増えている。社会のルールやマナーの遵守についても向上してきた。しかし、スマホの使い方などには課題も多い。また、生徒会活動が活発となってきている点は非常に喜ばしいことである。次年度も継続的かつ活発な取組をお願いしたい。</p>
	生徒会活動の活性化及び部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会役員の主体的活動や生徒会行事の活性化を図り、充実した生徒会活動に努める。</li> <li>部活動の勧誘を積極的に行い、加入率を昨年度より上回るようにする。（昨年度の10%増）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会本部の打ち合わせをこまめに実施し意志疎通を図った。特に登校時における挨拶運動は他の生徒に良い刺激を与え、徐々にではあるが自主的な挨拶が見られるようになった。</li> <li>新型コロナウイルスの影響により様々な大会等が中止となる中、陸上部、バドミントン部は制約された時間の中で活動を行い近畿定通体育大会に出場し入賞を果たした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の主体性や自主性を高めるような生徒会活動、部活動の在り方や魅力についてさらに検討していきたい。</li> </ul>	
人権文化	人権学習LHRの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の人権感覚を高めるために、人権の視点を大切にしたものを見方を深めるための人権教育HRの充実を図る。</li> <li>様々なテーマ（「部落問題」「在日外国人問題」「障害者問題」「性的少数者の人権」等）を4年間で実施できるように計画を立案する。また、必要に応じて、そのための職員研修を実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初の予定していた「部落問題」「在日外国人問題」等については、新型コロナウイルス対策の影響で学習できなかった。</li> <li>コロナ禍の生活における不当な差別、偏見については、身近な問題として学習する機会を設定できた。実生活の中での気づきや学びは人権意識を高めることにおいて有意義であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の生活における諸問題についての学習は継続する。</li> <li>次年度は従来の内容についてもLHRを実施。</li> </ul>	<p>日頃から、身近な題材について生徒に考えさせ、人権啓発を行っている。課題であった校内生活体験発表会の事前指導についても改善が見られた。次年度はコロナ禍により出来なかった研修を実施し、教育に反映してほしい。</p>
	校内生活体験発表会に向けた取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ学校で学びあうなかまとして、なかまの思いに共感し、共有することで生徒個々の自尊感情を高め、自己実現への意識を高める。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏期休業の課題として提出させてきたが、1学期から意識付けをし、例年より早めに取り組ませた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文を書くことが苦手な生徒に、教科の協力も得て今年度同様に取り組ませる。</li> </ul>	
	特別支援体制の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>配慮を要する生徒の把握に努め、生徒、保護者、教職員の共通理解の上、支援が可能となるような体制を構築する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度当初の中学校訪問等による情報収集、教員間での共有、保護者の協力を得て、個別の支援計画を作成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の取り扱いに留意し、年度当初できる限り早く計画的に取り組む。</li> </ul>	
進路指導	生徒理解(1～4年)と進路学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自己点検カード(1年)」と「進路希望調査(1～4年)」等を利用して生徒理解に努め、全教員で個に応じた進路指導が行えるようにする。</li> <li>各学年に応じた進路HRを実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路希望調査及び「キャリアパスポート」等を全生徒分作り、資料にすることができた。また、卒業後の進路を考えさせる機会が作れた。</li> <li>実施内容：進路資料提供、県福祉職場体験、フォークリフト講習会、3学期始業式後全校放送及び学科別1～3年キャリアコンサルタントによる進路講演会（HP掲載済）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校卒業後の進路を考えさせる機会をさらに考えていきたい。</li> </ul>	<p>4年生の進路の決定にあたり応募前職場見学等積極的に取り組むとともに、進路指導の観点から資格取得機会を設定し、生徒の進路にも大きく貢献した。また、3年生以下対象の進路講演を新たに実施し、進路意識が高まった。キャリアパスポートも有効に活用した。次年度は生徒指導部との連携をより強化して、生徒の意識向上に取り組んでもらいたい。</p>
	4年生の進路決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職・・・生徒理解に努めながら支援する。（就職相談、企業訪問、応募前職場見学、各関係機関との連携、就職試験対策、事務処理等）</li> <li>進学・・・将来の職業選択に繋がるような指導、情報を提供する。（進学相談、学校訪問、学校案内・募集要項の取り寄せ、学校見学・体験の紹介、入試対策、事務処理等）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路部長による4年生個人面談はできなかったが、就職希望者説明会、1学期末の進路相談、求人受付及び案内、書類発送等は、計画どおりできた。応募前職場見学9社6名（進路部長・各担任引率）、面接指導（全教員）等により、第1次応募者の進路先は決定した。進学は専門学校4名が合格した。調査書は、教務部の協力を得て「賢者」に移行した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路情報の提供等を常に行い、卒業後の進路を見つめさせる機会作りをさらにすすめたい。</li> </ul>	
	各種奨学金の申請及び事務処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>「奈良県高等学校等奨学金」「奈良県高校生等奨学給付金」「日本学生支援機構奨学金(給付・貸与)」「石澤奨学金」などの申請や事務処理を適切に行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月当初に奨学金案内一覧表を全生徒に配付し、「奈良県高等学校等奨学金」、「奈良県高校生等奨学給付金」24名、「石澤奨学金」、「教育公務員弘済会給付奨学生」が採用されたが、「学生支援機構給付奨学金」は、収入オーバーのため不採用であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>奨学金制度の追加や変更等をしっかりチェックし、正しい内容を連絡していかなければならない。</li> </ul>	

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
環境 保健体育	体力の向上	・スポーツテストを通じて、生徒の運動能力を把握し、その課題を明確にし年齢層に応じた体力の向上の取組を行い、運動に興味を持たせるよう工夫する。	B	・今年度は新型コロナウイルスの影響及び、耐震工事の関係でグラウンドが使用できず、スポーツテストの実施を見送った。ちなみに昨年度（参加率97%）のデータを参考に、本年度は生徒一人一人の運動能力の向上と体力強化に向けて、持久走等の内容を充実させた。個人差はあるが取組の成果が見られた。	・各生徒の運動能力は把握でき縄跳びや筋力トレーニングの成果が見られた。	スポーツテストは中止したが、前年度の資料を有効に活用し運動能力を向上させたことが評価できる また、防災訓練を普通授業の時にを行い、
	健康保持増進と安全教育の充実	・定期健康診断や各種検診を計画的に実施し、生徒個人の健康状態を把握し各検診の受診率93%以上を目指し家庭との連携を密にする。 ・防災教育を充実させ避難訓練を行い自分自身の身の守り方等の意識付けを行う。	A	・生徒の定期健康診断平均受診率の数値目標は、前年と同じく93%以上を目指したが、84.8%にとどまった（新型コロナウイルスによる休校と、学校再開後の登校状況に影響を受けた）。 ・手洗い・うがい・消毒に関してはある程度意識付けができたが密を避ける行動に関してさらに指導を重ねる必要がある。 ・避難訓練は実践型の訓練ができ、生徒の意識の高揚が見られた。今後も新たに工夫した取組を展開したい。	・受診勧告書を保護者に渡し受診を勧めると共に健康管理の大切さを促す。（コロナ対応）。防災教育を充実させ自分自身の身の守り方を身に付けさせ、意識高揚につなげる。	より実践的な取組とした点に工夫が見られる。校内美化についても生徒の意識の向上が見られる。次年度も工夫を重ね、生徒の健康増進、安全教育、環境整備の充実に取り組んでもらいたい。
	環境整備と環境美化への意識向上	・随時、施設の安全点検を行い、環境整備に努める。 ・環境美化への意識を高めるため、各クラスの環境委員を中心に自主的な清掃活動に取り組ませる。	B	・HR等での指導により、教室や廊下等のごみはかなり減り、学校全体の環境美化につながった。生徒によらない箇所の美化についても教員が自主的にきれいにすることで生徒に範を示し、さらなる校内美化意識の高揚につなげていきたい。	・環境整備についてはクラス運営の一環として適宜行うよう指導を行う。	
機械科	基本的、基礎的な知識・技能の確実なる習得 ものづくりへの興味・関心の育成・各種検定試験への支援	・座学で学習した内容をしっかりと理解し、その知識を用いて加工する手順や方法を考え、作品をつくり上げる。 ・作業後のレポート作成により実習内容の再確認を行い、学習内容の定着を確実にする。 ・機械科に関する各種検定試験について、放課後及び長期休業期間を利用して支援する。 ・作品製作に重点を置くことにより、完成の喜びを味わわせ、ものづくりの楽しさを認識させる。	B	・落ち着いた取組と姿勢が身に付いてきており、実習等も安全かつ意欲的に取り組むことができている。 ・学年が進むごとに、座学で学習した内容を理解し、その知識を用いて加工手順や方法を考えられるようになってきた。 ・新入生にも、実習服の正しい着用やレポート提出についてしっかりと習慣付けができてきた。 ・資格取得に積極的に取り組み、9名の生徒が取得することができた。 ・来年度の実習に新たに導入する予定の「消失模型鋳造法」に関する研修に取り組んできたが、これをさらに積み重ね、よりよい実習に向けた準備を進めていく。	・学年が進むにつれて、これまで学んできたことを活用して作業工程や使用工具等を自ら考えて作業していく場面を増やしていきたい。 ・引き続き将来を見据えた資格取得についてアドバイスをしていく。	課題研究において高度な取組がなされてきたが、さらに新しい取組を取り入れようとしている。また、生徒の安全意識も向上している。機械科で学んだことが進路選択に生きるよう、指導をお願いしたい。
ビジネス科	基礎基本を定着させるための授業方法の工夫 各種検定試験（希望者）への継続的な支援 新しい教育課程や評価制度の研修を深める。	・ICTなどを活用、授業展開の工夫改善を行う。 ・授業内容を通して資格取得に興味・関心を持たせ、受験者を増やせるようにする。 ・各種検定試験受験希望者に対して、放課後の補習や部活動を通じて継続的な支援を行う。 ・教員間の情報交換を年2回以上行う。	B	・実物投影機やインターネットを使用し、生徒に対して、新しい情報を視覚的に見せることにより、理解を容易にし、興味を持たせることができた。 ・各科目において授業の内容を工夫し、資格取得に意欲を持たせるように授業展開を行った。また、検定受験希望者には部活動や補習を通じて、生徒の能力に応じた指導を行い、合格者や次回受験を目指す生徒を増やすことができた。 ・新教育課程などの検討を通して、授業内容について話し合うことができた。	・できるだけ多くの生徒が将来を見据え、資格取得を目指すように、授業においてその必要性を考えさせるようにしたい。 ・新教育課程の実施に向けて、授業の内容をしっかりと考えていけるように研鑽を積んでいきたい。	情報機器の活用・モラル教育を積極的に行っている。新教育課程に向けた研究も充実し始めた。検定受験者増加にさらに力を入れて取り組んでもらいたい。
第1年年	定時制高校の生徒としての基本的な生活習慣を身に付けさせる。	・自己点検シートの記入により自己理解(学習面・生活面)をさせる。 ・年度当初の個人面談、家庭訪問、中学校訪問等により、積極的に生徒理解に努め、さまざまな場が学習の機会であることに気付かせる。	B	・様々な機会を通して生徒の状況をしっかりと捉え、保護者との連携を密にし、生徒理解を深めるように努めた。 ・多様な生徒が入学しており、クラスに応じた取組を考えながら、個々の生徒に適した指導を工夫した結果、生徒は少しずつ高校生活に対応できるようになってきている。	・個々の生徒と関わる機会を多く持ち、生徒理解を深める。また、このことを通してよりよい高校生活を過ごせ、自らの将来を考えることができるようにする。	高等学校に慣れない生徒に対し、関係部署や機関と連携し、きめ細やかな指導を展開した。不適応生徒の減少に向けてさらに強い取組を願う。

評価項目	具体的目標（評価小項目）	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的生活習慣の確立</li> <li>・ 学習意欲の向上</li> <li>・ 学校生活の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活と仕事を両立させ、欠席・遅刻を減らすよう指導する。</li> <li>・ 挨拶の励行やマナーの向上について継続的に指導する。</li> <li>・ 基礎学力を定着させるため、きめ細かい指導を行う。</li> <li>・ 専門学科の特色を活かし、実習、技能講座、検定試験等に積極的に取り組むよう指導する。</li> <li>・ 学校行事、生徒会活動、部活動等に積極的に取り組むよう指導する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各クラス内の雰囲気は良好である。</li> <li>・ 個別に細かい指導を行ってきたが、生徒自身の学校生活への慣れが、良い面、悪い面、両面に出た（出席等の状況、学習への取組、挨拶・マナー等）。</li> <li>・ 検定（電卓・ワープロ・簿記）への挑戦の姿勢が見られるようになった（ビジネス科）。</li> <li>・ 生活環境等が影響しているのか、就業率がやや低い。</li> <li>・ 生徒会活動や部活動等の課外活動に参加する生徒が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「定時制高校」がどのような学びの場であるかを再認識・再点検させる（生活面・学習面、部活動・生徒会、就業等）。</li> <li>・ 進路について意識させる。</li> <li>・ 学力定着のための指導など。</li> </ul>	<p>今後の学校の中心となる生徒を多く育て、進路に対する意識も向上した。将来の進路を見据えて、慣れに流されない学年集団の形成を願う。</p>
第3学年	<p>進路実現を目指し、基本的生活習慣や自己管理能力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度進路選択を迎えることを自覚させ、社会人として必要な基本的生活習慣、マナー、モラルの定着を目指す。</li> <li>・ 生徒一人ひとりに将来の目標をしっかりと見つめさせ、具体的な進路選択が可能となるように支援する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「キャリアパスポート」や「進路希望調査」を活用し、生徒や保護者と面談を重ねることで、将来の進路について具体的に考えるようになった。その結果、企業セミナーに参加したり、具体的な職種や企業について考える生徒がでてきた。</li> <li>・ 資格取得の必要性を繰り返し指導することで、将来の進路選択に必要な資格を取得したり、次年度の取得に向けて取り組む生徒がでてきた。</li> <li>・ 遅刻・欠席等を含め、生徒の健康管理を観察するとともに、常に生徒や保護者と連絡を取りながら基本的生活習慣が身に付くよう指導した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業後は就職する生徒が多いことから、働くことの意義や社会人として必要なマナー等の指導については、外部講師を招聘するなど、進路指導部と連携し充実を図る。</li> <li>・ 遅刻・欠席は日ごろからの声掛けが大切なことから、今後も基本的生活習慣が身に付くよう指導する。</li> </ul>	<p>進路実現に向けた指導を中心に、中核となる学年としての意識を育てた。また、多くの課題を持った生徒に対しきめ細やかな指導ができていく。進路実現に向けてさらなる指導をお願いしたい。</p>
第4学年	<p>自己の進路実現に向けて、適切な指導が行えるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒各自の将来設計を考えさせることができるように、日常の交流を通じて適切なアドバイスを行えるようにする。</li> <li>・ HR活動を通じて、就職や進学等に関する情報を生徒に知らせるようにする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入社試験受験者に対する履歴書の作成や面接練習などの指導に、自主的かつ熱心に取り組ませることができた。</li> <li>・ 就職進学とも、ほとんどの生徒が進路を決めることができた。</li> <li>・ 卒業後の進路を自分自身のことと考える意識が低い生徒が多く、進路への取組が遅れる者が目立った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早い段階から系統立てた進路指導を行い、将来像をしっかりと考えさせていく。</li> <li>・ 試験対策として、筆記試験や適性検査等の指導を充実させる。</li> <li>・ HRや面談等を通して、必要なアドバイスや情報を提供していく。</li> </ul>	<p>就職希望者全員の進路決定を実現した。最終学年での様々な知見を、下の学年に波及させて、早い時期からのキャリア指導に役立ててほしい。</p>